

国語単元学習の可能性

中島元昭

1 今なぜ単元学習か——生き生きとした学び手を育てる

今、国語教育は何ができる、あるいはしなければならぬのだろうか。指導要領に掲げられた「主体的」「個別化」にしても従来の方法では行き詰まっていることは否めない。いや従来も優れた教育実践や方法は数多くあった。だが国語教育においてある一つの方法を行えば、誰でもいつでもすばらしい効果があるというものはないと考えた方がよい。大事なものは、目の前にいる子どもたちに今どのような力を付けたいかという教師の強烈な思いと適切な教材選択、そして生徒の側に立つて授業を構想することである。今、単元学習の振興が求められている理由は、二点ある。

一点目は子どもたちの国語学習への意欲を喚起し、主体的能動的な学習活動を組織していくにはどうすればよいかという課題に答える道としてである。ある話題に対する学習者の興味や関心を掘り起こし、学習への意欲を引き出し、それを軸に学習者の主体的能動的な学習を組織していくのが単元学習だからだ。

二点目は子どもたちに「人間らしい発達と結びついた形で言語

能力が発達していない」という問題がある。人間らしい感性が育っていないことからくる、ことばと意識の歪み、人間らしい心や認識が育っていないことからくる、ことばと思考の歪み、人と人との深い交わりを避ける行動とことばといった現象が、心ある人々の心を痛めている。人間の発達の総体の中で国語の学力の発達をはかっていくためには、次の四つの原則にしたがう必要があるであろう。

ア 言語による理解や表現の活動を、認識活動と一体のものとして学習させる。

イ 学習活動の中に「言語によるコミュニケーションの過程」が組み込まれていなければならない。

ウ 国語の教育課程は、言語それ自体を認識の対象として学習（言語学習）と言語を用いて行う言語活動の学習とが、相互に作用し合うように編成されていなければならない。

エ 言語活動の指導の中心は、「話し方・聞き方・書き方・読み方」といった方法に関する「知識」を与えることや、むき出しの「技能の訓練」をすることにあるのではなく、そのよ

うな方法や技能が必要となる場面を指導者が提供することによって、実際に「言語活動をさせ、その言語活動の中でそのような方法や技能を使用させる」ことにある。指導者のなすべき重要なことは、そういう「場」を用意することである。このような原則にしたがった授業、即ち人間の発達の総体の中で国語の学力を発達させるためにも、単元学習は必要なのである。

2 国語単元学習の長所

単元学習は学習者の目的意識を最も重視する。目的は評価のよりどころにもなる。自分の目的を明確に自覚して、その目的に照らして自己評価しながら、自分の行動を修正しつつ行動するということは、主体的に判断し行動する人格の育ちを助けることになる。完璧な単元学習を行った場合、次の点が実現する。

- 1 一人一人の学習者に必要な教師の助けが得られる。
- 2 他の子と比べられて優劣が取りざたされないで、一人一人の向上が認められ助けられる。
- 3 一人一人の違いが認められ、一人一人が生かされて尊重される。
- 4 集団の中で個が生きる。
- 5 分担共同学習などの方法が工夫されることによって、すべての学習者に出番が与えられる。
- 6 すべての学習者が他の学習者に犯されない持ち場を持つ。
- 7 学習者一人一人にふさわしい目標や学習材が用意される。

- 8 一人一人の学習活動のペースが尊重される。
- 9 結果としてできあがった作品の出来映えよりも、作る過程で作業や練習をする中で学習が成立することが重視される。
- 10 誤りがとがめられない。
- 11 成就体験による学習が重視される。
- 12 自分がよく理解され、自分の現在が肯定され、いつも自分の現在から出発する。
- 13 学校内外の生活に根ざした学習である。
- 14 家庭・地域など自分の属する社会との関連が密接である。
- 15 教師の側に学習者の言語生活の向上についての指導目標が明確である。

言葉を変えていうと、次の点が実現する。

- a、主体的に学習する学習は、生徒の興味、関心、必要から出発し、教材の選定や扱い方も生徒の発想を尊重する。
- b、経験を通して学習する作業を通して学ぶ
- c、協力して学習するグループ学習や話し合い
- d、個の特性に応じて学習する作業の分担や発問の工夫学習内容の多様化、活動の多角化
- e、目標と計画を持って学習する学習によってどのような国語力が身に付くかという見通しの上に立つての学習
- f、問題解決を目指して学習する問題を設定し解決する一連の行為、問題解決に必要な手順や方法を工夫すること。その中に、文献を調べる、作品を読みとるという学習を位置づける。

g、総合的に学習する

・計画、実施、評価の3段階にまとめる。

・読解の学習でも、文章を読む、朗読を聞く、ノートを取る、討論をするという様々な行為の組み合わせで、聞く、話す、書く、読むなどの力をつける。

これらはまさしく新しい学力観で求められているものであり、これからの時代を生き抜く人間に必要とされているものである。

3 単元学習の短所

① 時間がかかる。

生徒を主体に考え、作業を多く取り入れるので、時間がかかり、教材を精選しなければならない。特に、単元構成の規模が大きくなるほど、時間配当も多くなる。従ってその学習内容は、学習者にとって必然的な理由がなければならぬ。年間指導計画の位置づけを吟味しておく必要がある。

② 面倒だ。まわりくどい。

個に応じた教育、生徒主体の学習を考えれば、ある程度はやむを得ないといえる。しかし、共同研究や実践成果を蓄積し、お互いに活用する必要性が高まるだろう。

③ 学力がつかない。

「もつと、一つの作品を読み込んで、言葉の力をつけることが大切だ。単元学習が教師の趣味のようになっていく。」との批判がある。読む力や書く力を授業で伸ばすことが本来なのに、

何かをするために読む、書くなど副次的目標がクローズアップされていると単元学習を疑問視する見方を代表したものだ。

そうした「精読主義」への疑問として「一つの作品を精読して読む力をつけよう」としてきたが、従来、それで、その教材を読む力はついても、他の作品を読みたいと思わないような子供を育ててきたのが実状ではないか」という、精読主義が教室で与えられた教材を読むだけの力にとどまってきたのではないかとの問題がある。

単元学習が唱道された背景には、国語の学習が教室での授業場面に終始し、日常生活での国語の力を深めることにつながっていないのでは、との疑問、従来型の授業への問題提起としての意味もある。

教科書教材をあくまで素材の一つとして、他の教材と組み合わせるなど、その素材でつきたい力を明確にした単元づくりを図るねらいが注目されてきた。新しい学力観に立った国語授業をめぐす方向といえる。

④ 学力の穴をあげそうだ。

年間指導計画の中で、指導事項を意識した学習指導が頻度も含めて、どのように位置づけられているかを示しておく必要がある。そのときしていることが、全学習指導計画のどこに位置を持っているかをはっきり知っておく。学習に重複や欠落が生じないようにするため綿密な計画を立て、知的満足を与えるような新鮮な教材を発掘し、生徒が真に意義のある学習であると感ずる学習活動を展開させる。経験単元の開発に努め、知識や

技術に直接関わる学習も取り入れることが必要だろう。

また総合単元学習を成立させるための留意点としては、

ア 単元の学習課題が学習者の「本当にやりたいこと」になっているか。

イ 必要な情報（たとえば、新聞・雑誌・図書など）が、必要な数だけ準備できるか。

ウ 学習活動をすすめるのに必要な基礎的学力が育っているか。（たとえば、話し合いの能力や発表の能力など）

エ 総合単元学習を指導できるだけの力量を教師が備えているか。（たとえば、使用する資料のすべてに目が通してあること）

オ 学習者に応じた個別指導ができるか。
などがあ

なお、総合単元学習の展開に当たっては、適切な「学習の手引き」も用意したい。

これらの条件をすべて満たしていないと総合単元学習に踏み切れないとなると、これまた実践不可能に陥ってしまう。指導者のおかれていた条件に合わせて、まず実践できそうなことから着手してみるというのも一つのいき方であろう。

4 単元学習の実践的課題

ア 単元学習の基本は子供が、課題を持って学ぶことである。そのため、教師の課題の選択が重要であるが、教科書を使用す

る場合にも、何のためにそれを教えるのかというテーマの意味の把握と、その理解を広げ、深めるための教材研究が重要だ。

さらにその課題を、どのように子供自身の課題としていくかが、肝要であり、教師が子供たちの多様な興味、関心に対応しうる、課題についての広く柔軟な理解を持つことが重要である。

イ 特に教科書に従って授業が進められるとき、教材は断片化され、授業はその伝達という性格を強める。そこで必要なのはカリキュラム全体の構想の中で、テーマを位置づけることだ。

ウ 課題を追求する中で、読み、書き、話すといった力が必要感を持って学ばれ、要求され、鍛えられていく、そしてそのような力が鍛えられることによって、課題の質が高められるという相互の関連が必要だ。このような指導において教師の学習者に対する個別的、具体的な援助が求められる。

エ 一斉授業の中で、一人一人の表現の機会を作り、その表現に即して援助することが個別指導の重要な機会であり、単元学習にとって不可欠の条件である。

オ 単元としてどのようなテーマを選ぶか、ある単元の意義をどのようにとらえるかは、その単元の背景にある学問、文化、そして子供の生活等に関する教師の理解を求めるのであり、そのテーマを子供の課題とし、授業において子供の表現を読みとるには、学習者への広く柔軟な理解が必要だろう。そのような理解に基づいて、学習者への具体的な援助が可能となる。

何のために、何を教えるのかという大きな目的のために、そのような力量を、発展させていくことを欠いては、単元学習は成立し

得ない。個別的な視点が必要であり、生徒の実態を把握することが必要である。現在の「わかりやすく説明し、教え込む」「効率よくすっきりと整理して与える」やり方では「自分で感じ、考える力」は育たない。

5 実践に移す際の障害

ア 教員の意識

今、発想の転換が必要とされている。すなわち現状の

- ・ 追いつき型教育（教科書の知識を暗記し、教師の講義を筆記し、テストに上手に解答することが高く評価される学校・効率的に上手に教える教師）
- ・ 学校だけをあらゆる教育の中で過度に尊重する教育風土
- ・ 「余分なことを考えずにしつかり勉強させる」進学校

から

- ・ 「言葉の学び手を育てる」という視点
- ・ 「学力を身につける能力」
- ・ 「自らの学力を向上させようとする生徒を育成すること」を重視

へと変える必要がある。

イ 担当の問題

七クラス。国語科七名。内担任五名。四月一日に校務分掌と担任の発表があった後、教科会議で決める。担任を持つ学年中心。一クラスはなるべく複数で受け持つ。生徒との向き不向き、成績の偏りを避ける。担任外ものが、学年をまたがって持つ。今年三年の理系四クラスは四単位を一人でもっている。

ウ 評価の問題

学年で同一問題。平均六五点めど。選択をした場合に、どういう設問が適当か。客観性の問題。

6 単元学習的な考え方を取り入れた授業

ア 単元学習の原理的特徴

(1) 教師中心の講義型や発問中心型とは対極にあるものである。学習者の言語生活を基盤とし、その興味関心（顕在、潜在）と社会的要請との接点に単元学習は組織される。

(2) 興味関心のみに基づく作業化ではなく、どのような国語の力を付けるのかという明確な目標を指して作業、活動が組織される。

(3) 教科書を順次扱う行き方と対照的である。教科書を包み込むような複数の豊かな、個に即した教材の発掘、収集、組織が決め手になる。

(4) 全員に同じ問題を与えるような画一的授業とは縁がない。

個を生かすために、目標を重層的にとらえ、方法は多彩に用意される。特に方法については、知らず知らずに目指す力がつくように工夫が凝らされる。

(5) 教師は、学習者の言語生活の実態をとらえる力や言語文化に関する幅広い知識や技術を持つことが必要になる。

単元学習は、言語生活の向上を目指して、国語教室に実の場を設定し、多彩な教材資料を駆使して展開されるものといえよう。

しかし、これまで述べた壁によつてすぐに総合単元学習を取り入れて実践しなさいと言われても躊躇する人が多いだろう。そこで単元学習の精神を取り入れた授業を広めていってはどうだろう。

イ 私の過去の授業—二例

① 「舞姫」(森鷗外)

- a 朗読をする
 - b 口語体に直す
 - c 難語句の意味調べをする
 - d 作者について調べる
 - e 紙芝居を作る
 - f 試験問題を作る
 - g 劇を作る
- を板書し、自分の希望するところに名前を記入させ、班分けした。
- 【生徒の感想】
- ア グループでやったのは楽しかったけど、少し無駄な時間があつた。
- イ 作業を通して、自分たちで考えたり、調べたりしたことが

印象に残っている。

ウ 自分たちで口語に直したので、理解しやすかった。

エ 授業は楽しく、グループ単位で休み時間も作業していた。

オ 割り当てられた部分だけをやろうと思つても、前後を読まなければわからなかつたので、十分よく読んだし、とてもた

めになった。

その原因を私なりに分析してみると、

1 取り組む課題を生徒自身が選択した。

2 班ごとに課題が違つていた。

3 場所が図書室で自由に動き回ることができた。

4 班の中で相談しながら、進めることができた。

などが挙げられる。

② 教材 万葉集・古今集・新古今集 (「国語II」三省堂)

- a 教科書の和歌 万葉集九首 古今集九首 新古今集九首を、それぞれ範読した後、後をつけて読ませる。各自読み返し、好きな歌に○をつける。
- b 一人一人が取り組む課題を決め、方法を考える。必要な者は図書室に行く。
- c 作業をする。(冬季休業中)
- d 自己評価票をつけて提出。
- e 1 時間に3首ずつ扱い、作者や修辞法、鑑賞文や絵など関係した物があるときは、生徒に発表してもらつた。(該当する物がなければ、教師が補足。)

【生徒の感想から】

ア 思っていたより大変だったが、3つの資料を見て、調べていくのがとてもおもしろくなってきた。この課題を仕上げても満足している。

イ 教科書の憶良のイメージと違ったところを見つけることができた。何冊か本を見て、少しだけだが、異なるところがあり、おもしろかった。

ウ 作者のことを調べていくうちに、すごく好きになれた。

エ 作品を詳しく調べることにより、よく理解でき、関心を持つことができるようになった。

オ どうすればうまく絵で表現できるかというのが結構難しかった。でも仕上げた後はとても充実した気持ち。一応自信作です。

カ AM4時までかかり、本当にしんどかった。でも最後の所を書くとき、何となく楽しかった。家持のことなら何でも聞いてくれ！というくらいにできた。

キ やりがいがあったとおもしろかった

ク 適当な資料が少なく、苦勞した。

●資料 配布プリント

「万葉集」「古今集」「新古今集」について

次の3つの課題の中から、一番興味のある物、やりがいを感ずるものをも一つ選んで取り組もう。

課題A

- ① 3つの歌集の特徴を調べて、一覧表にする。
- ② 教科書のいくつかの歌を例に挙げて、調べた特徴が、具体的にどのようなように現れているか、説明する

課題B

- ① 教科書の歌の中から、自分の一番好きな歌を一首選び、その歌を絵で表現する。
- ② 絵と響きあう鑑賞文を書く。

課題C

- ① 教科書の中で自分の一番好きな歌人を選んで、その人や作品の傾向について調べ、紹介する。
- ② その人の歌で、教科書に載っていない歌を、三首あげる。

○形式はすべてB4の用紙1枚に仕上げること。

「万葉集」「古今集」「新古今集」課題自己評価票

1 選んだ課題 ()

2 使った資料 書名

著者名

出版社名

3 自己評価

① 資料を十分使いこなしたか

↓ A B C

② 調べたことをもとに自分なりの工夫をしたか。

評価	↓ A B C
	③ わかりやすく丁寧に仕上げたか ↓ A B C
	④ 苦心したところ・特に見てもらいたいところ (3行 記述欄)
	⑤ 課題を仕上げた感想 (記述欄) 2行 記述欄
4総合評価	A B C
2年()組()号()	()

【考察】 これは授業というよりも課題の出し方である。「冬休みにやっつけてきなさい」という場合も、複数の課題を立ててその中から生徒に選択させる。これだけで生徒の意欲に大きな違いが表れたのである。予想以上であった。
私は、キーワードを「選択・創作(自己表現)・達成感」としたい。

7 今年度の取り組み

ア 現状

伊万里高校に勤務。九年目。進路指導部就職・公務員担当。P T A係。国語科主任。県研究委員。学校は全日制普通科一学年

七クラス。国公立大学に百名程度合格する。生徒は大学進学を目指して入学しているものが八割。もうじき九十周年を迎える。
イ 進度表(後掲資料1、参照)
ウ 授業の実際

▼二分間スピーチ
授業の始めに、二分間スピーチを二人実施。評価・感想を書く時間まで十〜十五分。

① 指導目標
ア 「二分間スピーチ」を通して、スピーチに自信や関心を持たせる。
イ 話材や話し方の技術を学んだ後、下準備をしてスピーチをさせる。
ウ スピーチの評価について各自が向上するような評価の方法を学ばせる。
② 帯単元として、各時間の最初に実施する。発表順はくじで決める。
③ 八百字程度の原稿を書き、提出。スピーチは発表メモで行う。
・一回目は全くの自由。
・二回目は「意見文」であれば、題は自由。
④ 一回に二名実施。担当者は事前に題と氏名を黒板右側に書いておく。

⑤ 他の人は評価表で評価する。発表者に手渡し、発表者は後で自己評価・原稿とあわせて、指導者に提出する。

○スピーチ向上評価表

スピーチ題	【	】
話者	【	】
評価	内容 () / 10	
	声量 () / 10	
	態度 () / 10	
感想	六行記述欄	
	私の氏名 () 組 () 番 ()	

▼教科書を使って

残りの時間で授業。一学期現代文は評論二編。中間考査までに「若い人たちへの手紙」期末考査までに「理解と誤解」(尚学図書国語)。

・通読後に疑問点を各自出す(一時間)。

・教師が聞きたい箇所も加えて、一覧表(後掲資料2)にし、班ごとに割り当てた。班ごとに話し合い、班としての統一見解を出す(二時間)。
 ・段落ごとに指名読みし、含まれていた疑問点について発表する(発表の手引き、後掲資料3)。前後の班が質問したり、同意したりする(四時間)。
 ・確認問題をし、ノートに整理する(一時間)。
 ・(作者に対する反論を考える)。

※班の編成

一回目は番号順の座席で組み合わせ。二回目は班長も含めて、くじで決定。

▼表現、創作、

書かせることに主眼を置く。

・短詩形の創作。(期末考査十一点分とする)
 ・七月に中学校の先生への近況報告を書かせた。

エ 授業の感想

・中学校までの国語の授業と違って、自分たちで出し合った疑問点をさらに発展させ、発表で解いていく方法は、自分で調べる意欲もわくし、とてもいい。これからも積極的に授業に取り組みたい。

・現代文はグループで話し合ったり、発表したりする授業だから、とても楽しかった。最近では発表の仕方もよくわかってきた。それに毎回スピーチがあり、みんなのいろいろな意見が聞けておもしろい。

・今の授業のやり方は楽しいなと思う。同じ文章でも人がたくさんいれば、それだけ別の意見が出てくるからだ。こんな授業だと長く感じない。ずっとこんな授業だったらいいと思う。

・僕は今の授業のやり方があまり好きではない。話の方に夢中になり、実際はあまり充実していないと思うからだ。それと僕にはあまり内容がつかめない。

・高校は自分で何でも考える所なんだと思った。

(佐賀県立伊万里高校)

平成 10 年度 1 年 国語科 学習予定表

月 週 目	現 代 文 コピヤ	古 典 コピヤ	漢 文 コピヤ
4 (2) 5 (2)	<p>【入門】オリエンテーション① ○若い人達への手紙 (辻邦生) ⑤</p>	<p>古文のノート作り、50音図、 歴史的仮名使い ① ○筒井簡</p>	
6 (1) 6 (4)	<p>【評論】 ○理解と誤解 (鈴木孝夫) ③</p>	<p>【徒然草】 ○つれづれなるままに ○仁和寺にある法師 ○能をつかんとする人</p>	<p>漢字・漢文について、 漢和辞典の使い方 ① ○簡歴法 ② ○故事成語 ③</p>
7 (1) 9 (2)	<p>1 ○人間 ○羅生門 (芥川龍之介) ③</p>	<p>期 末 考 査</p> <p>【今昔物語集】 ○羅城門題 ④ 【平家物語】 ○木曾の叛期 ⑤</p>	<p>【蘭語】 ⑤</p>
10 (2)		<p>中 間 考 査</p>	
11 (3) (2)	<p>【参考】 ○科学者と頭 (寺田寅彦) ③</p>	<p>問 題 演 習</p>	<p>【虫記】 ○鶴鳴約空 (町馬蓮) ⑤</p>
12 (1) 1 (3) 2 (3)	<p>○時 ④</p>	<p>期 末 考 査</p> <p>○和歌 ④</p>	<p>○唐代近体詩 李白・杜甫 ⑦</p>
3 (1)		<p>学 年 末 考 査</p>	

1	又「くまなく」という語の意味を書か。	1	1	又「くまなく」という語の意味を書か。
2	「仰ぎ見て」の反対語を探せ。	2	2	「仰ぎ見て」の反対語を探せ。
3	「初めて自分の家と庭を見下ろした時」	3	3	「初めて自分の家と庭を見下ろした時」
4	「不思議な眺め」とはどういうことか。	4	4	「不思議な眺め」とはどういうことか。
5	「声を立てて笑つてしまつた」のはなぜか。	5	5	「声を立てて笑つてしまつた」のはなぜか。
6	「熱知」という語の意味を書け。	6	6	「熱知」という語の意味を書け。
7	「これら」指しているものを挙げ、	7	7	「これら」指しているものを挙げ、
8	「自家中毒」という名の「ひび」大層か。	8	8	「自家中毒」という名の「ひび」大層か。
9	「褒ち度」とは、どんな病気が。	9	9	「褒ち度」とは、どんな病気が。
10	「大層で笑ひだした」のはなぜか。	10	10	「大層で笑ひだした」のはなぜか。
11	「大層」を指して具体的な説明を求め、	11	11	「大層」を指して具体的な説明を求め、
12	「星の上の布団から見える四冊の光景」はどのように見えたか。	12	12	「星の上の布団から見える四冊の光景」はどのように見えたか。
13	「思い換えよ」を文中の別な語で置き換へよ。	13	13	「思い換えよ」を文中の別な語で置き換へよ。
14	「二つの身体別に共通している原因は」どんなことか。	14	14	「二つの身体別に共通している原因は」どんなことか。
15	「悪い病状」とは、具体的にどんな出来事か。	15	15	「悪い病状」とは、具体的にどんな出来事か。
16	「たちどころに」は、どこで直感されるか。	16	16	「たちどころに」は、どこで直感されるか。
17	「まあある」の語の意味を記せ。	17	17	「まあある」の語の意味を記せ。
18	「か」が「か」りしてしまつた」のはなぜか。	18	18	「か」が「か」りしてしまつた」のはなぜか。
19	「動員」の語の意味を記せ。	19	19	「動員」の語の意味を記せ。
20	「必要な情報」とは例をばどんなものか。	20	20	「必要な情報」とは例をばどんなものか。
21	「不意に」の語の意味を記せ	21	21	「不意に」の語の意味を記せ
22	「その声をめぐる多くの情報の流れの中で、対象を相対的に決定している」とは	22	22	「その声をめぐる多くの情報の流れの中で、対象を相対的に決定している」とは
23	「唯一無二」とは、何を指すか。	23	23	「唯一無二」とは、何を指すか。
24	「二」の「よう」は、何を指すか。	24	24	「二」の「よう」は、何を指すか。
25	「私」は「一面」の「面」を指すか。	25	25	「私」は「一面」の「面」を指すか。
26	「それ」を指しているものはなぜか。	26	26	「それ」を指しているものはなぜか。
27	「解理的」として理解している」とは	27	27	「解理的」として理解している」とは
28	「それは」とは	28	28	「それは」とは
29	「家問題」とはどういうことか。	29	29	「家問題」とはどういうことか。
30	「物理的な固定条件」例を挙げ	30	30	「物理的な固定条件」例を挙げ
31	「物理的な固定条件」例を挙げ	31	31	「物理的な固定条件」例を挙げ
32	「物理的な固定条件」例を挙げ	32	32	「物理的な固定条件」例を挙げ
33	「物理的な固定条件」例を挙げ	33	33	「物理的な固定条件」例を挙げ
34	「物理的な固定条件」例を挙げ	34	34	「物理的な固定条件」例を挙げ
35	「物理的な固定条件」例を挙げ	35	35	「物理的な固定条件」例を挙げ
36	「物理的な固定条件」例を挙げ	36	36	「物理的な固定条件」例を挙げ
37	「物理的な固定条件」例を挙げ	37	37	「物理的な固定条件」例を挙げ
38	「物理的な固定条件」例を挙げ	38	38	「物理的な固定条件」例を挙げ
39	「物理的な固定条件」例を挙げ	39	39	「物理的な固定条件」例を挙げ
40	「物理的な固定条件」例を挙げ	40	40	「物理的な固定条件」例を挙げ

現代文授業の流れ

- 1 スピーチ（題と名前を黒板に書いておく）
- 2 1 段落を読む。 (番号順に指名。形式段落一段ずつ)
- 3 2 1 発表に対する応答（確認・質問・訂正・付け加え）
- 4 5 発表の確定
- 5 5 答えの確定
- 6 5 次の問題へ進む

全部読み終わってからは、筆者に対する反論文を考えてみましょう。

現代文 発表・質問の手引き

- 3 班の人は、3、13、33を、発表する。
- 何番の「……」という問題について、発表します。
- 私たちの班では「……」という答えになりました。
- これは（広辞苑で調べて……に聞いて……教科書の……を基にして）まとめました。
- 前後の班に質問か、確認をする。
- 3 班の人は2班と4班にする。
- 3 班は2、12、32、……
- 4、14、34、……
- 質問か確認担当の分
- 1 班は、2班と10班に質問か確認、10班は1班と9班に
- 私たちの班でも、何班と同じ答えになりました。さっきの答えでいいと思
- います。（確認）
- 私たちの班は大体同じですが、「……」と付け加えた方がいいと思います。
- 何班でしょうか。（付け加え）
- 私たちの班は「……」と付け加えてください。
- 私たちの班の答えのままでいいと思います。だからです。
- 私たちはどちらかいいと思います。何班お願いします。
- すみません。すぐに答えが出ないので、検討させていただきます。次の時
- 間にお答えします。
- 私たちの班は大体同じですが、「……」の部分「……」とした方がいい
- と思います。何班でしょうか。（一部訂正）
- 私たちの班は「……」という答えになりました。
- これは（広辞苑で調べて……に聞いて……教科書の……を基にして）まとめ
- ました。何班でしょうか。（訂正）
- 発表の中の「……」という部分がよくわかりませんでした。すみませんが、
- もう一度説明をお願いします。（質問）